

第4回まちづくり懇談会 議事要旨

- 1 日 時 平成27年10月13日(火) 午後2時～午後3時
- 2 場 所 市役所9階 第2応接室
- 3 テーマ 「災害に強いまちづくり」

【議題】

- 「市民防災カフェ」の開催について
- (仮称)防災スペシャリストの育成について

4 次 第

- (1) 開会の辞 船橋SLネットワーク代表 片桐 卓
- (2) 出席者自己紹介
- (3) 市長挨拶 船橋市長 松戸 徹
- (4) 活動報告 船橋SLネットワーク代表 片桐 卓
- (5) 懇談

○ 市長挨拶

今日はお出でいただきましてありがとうございます。SLネットワークの皆様には、市の関係でいろいろとお手伝いいただき、また、市の防災行政が着実に前に進むためのご協力をいただいていること、本当に心強く思っています。

本日もいろいろとご提案をいただき、市としてできること、できないこと、すぐに可能かどうかということはあると思いますが、一つ一つ参考にさせていただき、取り入れられるものはしっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○ 活動報告

平成7年の阪神・淡路大震災の後に、当時の内閣官房副長官が「首都圏で大規模災害が起きた時に役立つような、地域の防災リーダーを育てなければいけない」と考え、その後、災害救援ボランティア推進委員会がリーダーシップを学び、セーフティリーダーの育成をしようという目的で当会が始まりました。それから20年が経過しています。

我々は、当初千葉県で活動していましたが、地域・船橋市で防災リーダーの育成や町会の防災意識の高揚を図りたいということで、「船橋S Lネットワーク」を平成18年9月に立ち上げ、町会、自治会、公民館で活動を始めました。

組織立っての活動や、被災地・被災者支援も必要ですので、公益社団法人の申請を行い、平成26年3月に公益社団法人のS L災害ボランティアネットワークとして団体の認証をいただき、「船橋S Lネットワーク」はその公益社団法人の下部組織となっています。

懇談内容の団体説明にもあるように、大規模災害に備えて災害救援のボランティアとして訓練及びスキルアップを図り、地域の防災に貢献するための活動を行っています。また、市のさまざまな活動や防災活動に関して、その支援を行い、現在に至っています。

○ 懇談

【団体】

今回のテーマが『非常時への備えのあるまち』ということで、近年、非常時に対しての市の整備が大規模に進み、備えは確実に良くなっている。行田倉庫の建設等、ハード面ではかなり進んでいると認識している。

一方で、講座を開催した時の市民意識が低いと感じる。また、町会でも意識の格差が大きく、市の担当部署も一生懸命やっていたが、広報活動が足りないのではないかと感じる。

そこで、もう少し意識付けを広げる活動をするべきだと市民側の目線で感じたので、2つ提案をしたい。

・市民防災カフェの開催について

【団体】

「市民防災カフェ」を市と一緒に、市役所1階のロビーで開催したい。

喫茶形式で開催し、今本当に困っていることは何かを市民から聞きだし、話し合うことが必要と考えている。

時期としては、総合防災訓練の1カ月程前に2、3日開催し、防災訓練への参加意識、船橋市いっせい行動訓練（シェイクアウト訓練）に対する登録の推進等、市の防災における取り組みを知らせる手伝いもできればと考えている。

【市長】

とてもいい考えだと思う。不特定多数の人が来るから場所は市役所とかが良いか。

気がかりなのは、市役所1Fのロビーで開催する際、喫茶形式だと難しいと思うところだ。ただ、他の市町村の「市民防災カフェ」を見てみると喫茶形式が良いだろう。

【団体】

市役所で開催できれば、市の職員も参加しやすいと思う。コーヒーや紅茶を飲みながら、リラックスして話をする必要があると思う。

【市長】

「市民防災カフェ」の中身については異論がないので、十分対応できると思う。開催時期としては、1月末に『防災フェアふなばし』を開催するので、その前に実施する可能性も十分あると思う。

ただ、閉ざされた場所では人が集まらないので、人が集まるための場所を考えないといけない。

【団体】

遠くなるが、総合体育館（船橋アリーナ）周辺なら自由に使える場所がある。また、屋外であれば全く用がない人もふらっと立ち寄れるので、良いと思う。

場所の話だが、3月にららぽーとの中央広場で開催した時は、市内外を含めて沢山の人が集まった。多くの人に市の防災計画や考え方を伝える場であることも重要なことだと考えている。

【市長】

開催場所がららぽーとだと、一般的な防災レクチャーとしてはいいかもしれないが、船橋市の防災レクチャーとなると少し違うと思う。ホームセンターで開催している市もあるようだ。

いずれにしても「市民防災カフェ」については開催することを前提として、場所の提案等について市の所管部署を含めやりとりをしていきたい。

・（仮称）防災スペシャリストの育成について

【団体】

これは、市民大学に防災学科を創設するという提案である。

今までの防災訓練では、町会の役員のみが参加しているが、いざという時に声を上げて引っ張っていくリーダーがいなかった。

皆のために声を出し、リーダーとなって先頭に立ち動ける人は、知識とともに、何かできるという裏づけがなければ指示が出せない。そのためには、市で年1回程度の講習を受けるだけでなく、昔のスポーツ健康大学のように、しっかりとした考え方、リーダーシップのとり方、防災の技術、そういったものを身につけた人を基礎から育ててもらいたいと思っている。

例えば、開催時間は、年代も考慮し、会社に勤めている人が学科を受けられるような時間帯である19時から21時頃にする。また、開催場所は、会社帰りに立寄ることができる場所を設定して、防災のスペシャリストを育てていただきたいと思っている。

また、スペシャリストを育てるにあたっては、少ない自己負担で防災が学べるようにしていただきたい。

【市長】

例えばSLさんでやっている講習を市民大学校でやってもらうのも1つだと思う。防災士の関係で、市の職員たちが講座を受けに行っているが、そろそろ市が主催をして講座をやれば良いと思っていた。

まずは市民大学校ボランティア学科の中で防災の枠を設けて、皆さんにも協力してもらいながら実際にやっていることなどを見せてもらえるといいのではと思う。

提案を実現の方向に持っていきたいと思うので、どのくらいの時間数が必要なのか、アドバイスしてほしい。

市の防災に関するPRがなかなか広まらない。皆さんの意見を聞きたい。

【団体】

もっと、若い方が出てくる手だてがあれば良いと思う。例えば、商店街と連携して防災について色々なところで話題に出せば、少しは意識が高まると思う。

やはり、行政と市民が日常的に接する方法を考えないといけないと思う。

災害時で一番必要なのは、周辺地域の情報。例えば、救援に行くとしても、道路状況が通行可能かどうか。道路状況は、市に電話すればわかるだろうが、そういった情報を一括して、市民が誰でも送れるようなシステムを作れば、随

分違うのではないかと思う。

ある市町村では、川の堤防が決壊する少し前にスマートフォンで情報を飛ばしても市で受け入れる部署がなく、結局その近辺から堤防が決壊したという事案があった。だから、船橋市でもスマートフォンなどを使った情報収集は、必要だと感じた。

【市長】

市民が誰でも情報を送れるようなシステムは、他市でも導入している。

本市でも取り組んではいるが、運用面で克服しなければならないところがあり、導入に至っていない。

気象災害の部分については、市民参加型の災害情報共有ウェブサイト『ふなばし減災プロジェクト』で閲覧・投稿することができる。ただ、そもそも市が行っている防災事業が、市民の方々に伝わっていない。これは、反省しなければならない。

別の催しであれば伝わるのだが、防災関係になると関心を持ってもらえないところがある。そういった意味では、先ほどお話にあった「商店街と連携して」というのは大事かもしれない。

【団体】

やはり、自分の命は自分で守る「自助」を自覚しなければならない。

市役所のせいにはせず、自分たちで伝える力をつけるというのも、1つのネットワークになってくると思う。

【市長】

市役所の幹部にも言っているが、地震が起きたときに身を守る『3つの安全行動(※1)』が、シンプルかつ分かりやすく市民と共有できればと思う。市民大学校でカリキュラムを作る際にもその点は同じことが言える。

防災のことを伝えるともものすごい量になるが、実際に命の危険が迫っている時にやれることはそんなに多くない。その辺りを、単純に整理できるといいと思う。

※1 『3つの安全行動』…「①姿勢を低くし」「②頭や体を守り」「③揺れが収まるまでじっとする」こと。

【団体】

防災行政無線が聞き取りづらい地域が多々あるため、きちんと聞こえるようにしてほしい。

【市長】

今年、防災行政無線を聞こえやすくするために、様々な場所で実験をしたが、超高性能スピーカーであれば聞こえやすくなる。しかし、そのためには、莫大な投資が必要だ。防災行政無線の内容を確認していただくには、『フリーダイヤル（TEL：0120-2784-61）^{ふなぼしむせん}』に電話するか、『市のホームページ（※2）』から見てもらう方がいいかもしれない。

※2『市のホームページ』閲覧方法…トップページから、「防災・災害情報」の「緊急情報」をクリックする。

【団体】

以前、船橋市障害福祉団体連絡協議会にて、身体障害者は自助にどのような備えが必要かをお話した。その際、身体に障害を持つ方々から、「避難所でこうしてもらえたら自分たちは暮らしやすい。」という意見をいただいている。

ただ、避難所の運営においては、健常者と障害者の状況をうまく取り合う必要があり、どういった方向性でいけば良いか一緒に勉強できたらと思う。

また、ある市では、子供たちが日頃から「てんでんこ」と教わっており、町会の方々と一緒になって、自分自身の判断で逃げられるところまで訓練をしていたから助かった。

総合防災訓練も、一般の教職員の方々に出てきてもらって一緒に訓練に参加してもらえれば、もっと変わってくるかと思う。

【市長】

現在、市と教育委員会でマニュアルを整理しているところだ。

【団体】

東日本大震災のとき、ある保育園が22時過ぎまで電気がついていたので、良かれと思って協力すると進言したら、保育園からお断りされた。

【市長】

保育園では、子供を第三者に預けた際のリスクがあるからかもしれない。

例えば、登録制にして、有事の際に側面的にお手伝いしてもらえるような形

はいいかもしれない。

ところで、各家庭の備蓄はどうなっているか。

【団体】

各家庭に、非常持ち出し袋やそれに類するものを用意してほしいと話しているが、実際にやっているところは少ない。

また、東日本大震災の時に、高層マンションの住人で、地震があったら避難所に行けばいいという感覚だった人が目立った。

【市長】

船橋市も、比較的新しい耐震性のある高層マンションがあり、上層階の住人は、とりあえずという気持ちで一晩くらいは避難所で過ごそうとなった際に、大きな災害が起きたとき、避難所の受け入れ数が足らなくなると思う。これが私としては非常に気になる。

各家庭では、普段から備蓄してもらえるといいと思う。

【団体】

最後に、安心登録カードに避難場所を書く箇所がある。おそらく、それを記入している高齢者や障害者の中には、震災が起きたら避難所に行かなければならないと思っている方も大勢いると思う。ぜひ、自宅避難という選択肢があることをもっとPRしてもらいたい。

【市長】

これからは、自宅避難の考え方が大事になってくる。安心登録カードは、船橋市社会福祉協議会が動いているのでやりとりを試してみる。

提案いただいた「市民防災カフェ」とスペシャリストの養成については、異論がないのでやる方向で検討し、考えを詰めさせてもらえればと思う。

色々伺うことができて、とても参考になった。こういうやりとりが大事だと思う。気づきが多いので、また機会があればこういう時間を持ちたいと思う。

今日はありがとうございました。

【一同】

ありがとうございました。